



第560号

公益財団法人 千鳥ヶ淵 戦没者墓苑奉仕会
102-0075 千代田区三番町2
電話 03 (3261) 6700
FAX 03 (3261) 6712



http://www.boen.or.jp
郵便振替口座 00140-2-42556

編集人 榊枝 宗男
発行人 杉本 順則



羽生田厚生労働副大臣

令和4年度の硫黄島からの
ご遺骨のご帰還 合計75柱

硫黄島は、東京の南方1,200km、グアムの北方1,300kmに位置し、小笠原諸島の小笠
原村に属する。航空自衛隊の最新鋭C-12輸送機(ジェット機)でも約3時間の飛行時間とな
る太平洋の孤島である。先の大戦の中でも、日米に多くの戦死者を出し非常に激しい戦闘とし
て戦史に記されている。防衛する日本の死傷者数よりも攻撃する米軍の死傷者数が上回った稀
有な戦いであり米軍は敬意を表して硫黄島の戦闘を「勝利なき戦い」と現在も呼んでいる。



硫黄島からのご帰還 空自儀仗隊(入間基地 4.12.5)

日本戦没者遺骨収集推進協会提供

昨年12月5日硫黄島から帰還
したご遺骨29柱は、航空自衛隊
の特別機で入間基地に静かに到
着した(写真)。ご遺骨を捧持し
た収集団員は粛々と特別機から
降り、滑走路脇のエプロンへ進み
出た。次いで整列して待機してい
た儀仗隊員が、喇叭隊の吹奏の
もとご遺骨に対し厳粛な「捧げ
銃」の敬礼を行った。その後ご遺
骨は航空自衛隊中部航空方面隊
司令官等の関係者の出迎えを受
け、仮安置する厚生労働省の霊
安室へ向かったが、基地内では入
間基地隊員約千名が道路路上に整
列し、敬礼によりおごそかにご
遺骨を見送った。今年度は4回
の帰還事業が行われ、毎回、千
鳥ヶ淵戦没者墓苑にて遺骨引渡
式が行われている。今年度収容
帰還されたご遺骨の総数は75柱
である。硫黄島での遺骨収集は
本年度最後にあたる。4回目の
収集団は、総員19名からなり、
1月31日〜2月15日の間、現地
に派遣されていた。



遺骨引渡式典(5.2.16)

後の遺骨引渡式は、戦友会、遺族会、そ
の他関係者多数が待ち受ける中、収集
団員に捧持されたご遺骨が式典場に到着
し、厚生労働省の職員に引き渡され、祭
壇に仮安置された。その後、全員による
黙祷、次いで羽生田厚生労働副大臣、参
列の国会議員、遺族参列者等の拝礼、献
花が行われた。羽生田副大臣は、遺骨収
集団の解団式の挨拶の中で、「硫黄島で
の遺骨収容は、2週間にもわたり、地下
壕や大量の土砂に埋もれた場所での御遺
骨の捜索など、大変厳しい作業の連続で
あったと伺っております。戦後77年を経
過し、御遺骨の発見がますます困難にな
る中、遺骨収集団の皆様のご献身的な御
努力により、派遣期間中に収容された25
柱の御遺骨を、本日お迎えすることがで
きました。遺骨収集団の皆様へ深く敬意
を表するとともに、厚く御礼を申し上げ
ます。」旨述べた。硫黄島における戦没
者の概数は約21,900人である。今
般の帰還により、硫黄島からの帰還遺
骨数は10,614柱となった。

東京行進を終えて
防衛大学校4学年 東京行進学生隊責任者
進藤 瑞生
東京行進は防衛大学校の学生有志に
よる伝統行事です。心身の鍛錬、愛国
心の涵養、団結心の向上を目的として掲
げ、防衛大学校からの約70kmの道のり
を20時間ほどかけて行進し、千鳥ヶ淵
戦没者墓苑及び靖國神社に参拝します。
本年度は本科学生のおおむね3分の1に
あたる631名の学生が参加し、11月
26日から翌27日にかけて、行進、千鳥ヶ
淵戦没者墓苑及び靖國神社への参拝を
行いました。

当日の午前中は天候に恵まれず、行事
実施も危ぶまれましたが、学生の思いが通
じたのでしょうか、何とか午後には雨が上
がり、開催にぎづけることができました。
当初は体力・気力ともに旺盛な状態で出
発した我々ですが、晩秋の寒空の下、時間
と距離を重ねるにつれ足や体に疲労が溜
まり、さらには睡魔までもが襲ってくる
という過酷な状況に陥りました。しかし学
生間での励まし合いや学生自身の気力に
よって、千鳥ヶ淵戦没者墓苑まで脱落者
は出さず、無事完歩することができました。
極度の疲労を感じつつも、紫紺の制服
に着替え、容儀を正して千鳥ヶ淵戦没
者墓苑に入ると、独特の荘厳で張り詰
めた雰囲気、自然と背筋が伸びるのを
感じました。来年度、私は防衛大学校
を卒業し、陸上自衛隊の幹部として任
官します。参拝を通じ、この墓苑に眠る、
祖国を守るため命を賭して戦い、そして
祖国に殉じた英霊の方々に恥じるところ
がないような自衛官とならなくてはな
らないと、志を新たにしました。この後、
靖國神社への最後の行進を完遂後、正
式参拝をした後に遊就館を見学し令和
4年度の東京行進を終了しました。

眠り、祖国の地を踏めずにいる英霊の方々
の無念を考えると、先の大戦のような悲
劇が二度と起きぬように後世へ風化させ
ずに伝えていかねばなりません。本年度
の東京行進は幕を閉じましたが、この行
事が学生から学生の手へと、この先何十
年と継承されていくことを願います。
最後に、千鳥ヶ淵戦没者墓苑におけ
る説明及び準備作業等に関わり、本行
事にご尽力を賜りました千鳥ヶ淵戦没
者墓苑奉仕会をはじめとする関係者の
皆様に御礼申し上げます。

千鳥ヶ淵より愛を込めて
杉本 順則
ソ連がウクライナへ侵攻し1年が経と
うとしているが、そんな折、昨年12月9
日、映画「ラーゲリより愛を込めて」が
封切られた。二宮和也・北川景子主演
のシベリア強制抑留に関連した愛の実話
である。公開初日は開戦記念日の翌日、
ソ連が日ソ中立条約を破棄して攻撃開
始してきた日でもあると思いつつ、私は
公開初日に鑑賞してきた。主人公の山本
幡男は軍人ではなく、満鉄の社員なのだ
が、ソ連の侵攻開始後、家族と別れ別れ
になり、元の上司に裏切られて、上級者
に虐められ、仲間からも阻害され等々と
理不尽で過酷で残酷な環境に居ながら、
どんな状況でも生きて日本に帰ろうと希
望を捨てず、前向きに生きようとする

千鳥ヶ淵戦没者墓苑
「春の茶会」のご案内
日時 令和5年4月2日(日)
09:30〜15:00
場所 千鳥ヶ淵戦没者墓苑
東京都千代田区三番町二
電話 03(3261)6700
最寄り駅 東西線・半蔵門線・
都営新宿線
九段下駅下車2番出口
半蔵門線

山本。一切悲観せ
ず、仲間の捕虜た
ちを励まし続ける
山本。夫婦愛、親
子愛、仲間同士の
絆、相互理解等々、
余韻の残る映画であった。
本来、あつてはならない国際法違反
を幾重にも重ねたのがシベリア強制抑
留で、理不尽にシベリアで死ななけれ
ばならなかった人々がいた事がよく分
かる作品である。本場にこんなあつて
はならないことが戦後の混乱を良いこ
とに行われ、何万人もの日本人が今も
極寒の地に埋まっているのだ。歴史の悲
惨さ、残酷さは薄めに表現されていた
ものの、人々の想いは深く表現されてい
て涙が止まらなかった。どれだけの人
がこんな想いを抱えて亡くなっていった
か。胸が締めつけられる。ラストシー
ンで、「よく覚えておくんだよ。今日と
いう日を」「こうして久しぶりに家族全
員でいられること。みんなの笑顔。おい
しい食べ物。ハルピンの日差し」という
台詞がある。そんな何でもないことが

千鳥ヶ淵戦没者墓苑
「春の茶会」のご案内
日時 令和5年4月2日(日)
09:30〜15:00
場所 千鳥ヶ淵戦没者墓苑
東京都千代田区三番町二
電話 03(3261)6700
最寄り駅 東西線・半蔵門線・
都営新宿線
九段下駅下車2番出口
半蔵門線
主 催 半蔵門駅下車5番出口
千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会茶会
薄茶席 表千家流 波多野好子 先生
薄茶席 江戸千家流 伊藤由雪 先生
薄茶席 遠州流茶道東京支部
薄茶席 裏千家流 岩崎宗恵 先生
演奏 (1)ぶらイム(テルミン)・大西ようこ氏
ギター・三谷都夫氏)・杵屋三朗氏
(2)吉川裕之氏(クラリネット演奏)
茶会お問合せ先
https://www.houshichakakai.com

この刊行物は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。

宝くじ logo
あなたに夢を。街に元気を。

幸せであり、先の大戦で亡くなられた方々のおかげであることを現代の私たちは忘れてはならないのである。そして時々思い出し、心から感謝しようではありませんか。



さて、千鳥ヶ淵戦没者墓苑の東門から入ってすぐ左側に「追悼慰霊碑」と「平和祈念碑」とが並んで建てられている(写真)。「追悼慰霊碑」の説明文には、「強制抑留者の尊い命を失われた方々の追悼慰霊碑。昭和20年8月、今次大戦が終結し、武装解除後にもかかわらず、旧ソ連は約57万5千人もの軍人軍属及び民間人をシベリアや中央アジアなどに長期にわたり強制抑留し、鉄道敷設や森林伐採など過酷な強制労働に従事させた。栄養失調や酷寒の劣悪な作業環境下で約5万5千人が犠牲になった。この悲惨な事実を風化させずに、後世に伝えるとともに犠牲となられた方々へ深い哀悼の意を表し、恒久の平和を祈念して、この碑を建立する」と刻まれている。

「ラーゲリより愛を込めて」の映画を観て、シベリア強制抑留の犠牲者に哀悼の意を表したいという方々には、是非とも墓苑にお参りいただきたい。もう一つの祈念碑「平和祈念碑」の説明には、「引揚に伴う死没者の永遠の平和祈念碑。昭和20年8月に今次大戦は終結し、終戦の大混乱の中、生活の全てを失い、苦難の末祖国へ引揚げた方々は約320万人にも及んだ。しかし終戦の失意と疲労困憊の極限状態にあった引揚者にとって祖国への道のりは遙かに険しいものであり、

引揚げの途中20万人余りが犠牲になった。これら引揚者の過酷な体験を記憶し、後世に伝えるとともに、犠牲となられた方々へ深い哀悼の意を表し、恒久の平和を祈念して、この碑を建立すると刻まれている。こちらの碑にも思いを致しお参りいただければありがたいと思います。以上、千鳥ヶ淵より愛を込めて紹介致しました。



【かけがえのない日本、かけがえのない世界⑬】
継承と修士論文について
JYMA日本青年遺骨収集団
高橋 広平

「袖振り合うも他生の縁」道を歩いていて知らない人とすれ違った時に触れ合うような些細なことも、前世からの因縁によるものだという諺です。20年近く遺骨収集活動を行う団体JYMA日本青年遺骨収集団の端くれとして携わって参りました。その中では様々な出会いがあり、多くの学びがあったのですが、その出会いには感慨深いものがあります。学生時代でありました平成12年にロシアハカシア共和国、平成13年硫黄島、平成14年沖縄の遺骨収集活動に参加し、以後、社会人として民間企業に勤める傍ら事務局のお手伝いをさせて頂いております。特に親族に遺族がいるという訳ではございませんが、多くの出会いがあり、これまで続けられたことは御英霊が導き下さったものとして有難く思っている次第です。毎年多くの学生が派遣地へ赴き、スナップや熊手を持ち、戦友やご遺族、関係者の方々と寝食を共にする派遣に

おいて多感な大学生は何を受け止めるのだろうか。気ままな大学生活を送っていた大学生が現地で成長して戻ってくるのだろうか。私は、学生が大学の4年間でどれだけ成長できるのかという過程を楽しみに現在も学生と共に活動を続けております。学生が派遣地で学ぶことは、それぞれの感性で受け止めることですが、収集現場へ赴くと戦時に思いを馳せ、作業後は戦友やご遺族の方と戦中や戦後についてのお話を拝聴し、作業の手配をする関係者と収集の段取りを行う方法を知り、ご支援いただいている方々へ現地から絵葉書を送ることも「こんなにご支援を頂いている方がいらつしやるのか」と多くのことを学ぶ機会があります。事務局を手伝ってくれる学生は手紙や葉書、エクセルやワードの使い方、プレゼンテーションの方法、組織運営手法、企業とのメール連絡、数えきれない程多くの社会人としての基礎を学ぶことができ、卒業するころには入社1年目で即戦力として活躍できるように育っています。平成13年に参加した硫黄島では、硫黄島協会より茨城県の福田昭さんが参加されておりました。硫黄島では夕食が早く、学生にとって夜にどうしても小腹が減ってきます。そんな学生を福田さんは夜な夜な部屋に呼びラーメンやつまみをご馳走していただく傍らでポツリポツリと話をしてくださいました。戦中の話、若かった頃の苦勞話、学生時代の思い出、そんなことを話しながら多くの人生訓を賜りました。私は現場で学び、考え、成長させて頂いたのだと考えております。先日、靖国神社偕行文庫で硫黄島の検索を行った際に、福田さんが寄稿された報告書を偶然にも発見しました。懐かしく思うと共に、その緻密な報告書に驚き、改めて学ぶことがありました。現在、福田さんは現場に参加しなくなりませんが、不惑となった私の中で、学生に伝えられることがあればと思いい書生ではありますが、学生と一緒に時間を過ごしている次第です。

平成29年にJYMA日本青年遺骨収集団は50周年を迎え、記念祝賀会を催しました。この際のテーマは「平和と感謝、そして継承」というものでした。連絡のつく可能な限りのOB・OGへ連絡を取り、参加者を募ると共に当時の写真を集めスライドショーを作成しました。写真を頂く際に当時のお話を頂戴し、一人ひとりから貴重な写真をお借りすることができました。このスライドショーは制作会社に勤める後輩が作成し、会場では大きな反響があったことを覚えております。私の中では当日の祝賀会は勿論の事、その後で多くの関係者と出会いご協力を頂き、お話ができたことそのことがこの事業を進める上で「和」であり、当日、お伝えすることが「感謝」であったと感じております。そして、「継承」は未だに続いております。福田さんは作業終了日に「高橋君には修士号を授けましょう、でも修士号はこれからですよ。励んでください。」とお話してくださいました。袖振り合うも他生の縁。どう振り合うかはわかりませんが、これから出会う学生との時間を大切にしながら、継承という修士論文の言葉を紡いでいこうと思っております。

【かけがえのない日本、かけがえのない世界⑭】
遺骨収容派遣に参加して
JYMA日本青年遺骨収集団 事務局長
小林 史弥

私は2020年1月29日から2月14日に実施された、第4次硫黄島遺骨収容派遣に参加した。私の母方の大祖父はテニアン島で戦死しており、この硫黄島派遣に参加する旨を祖母に伝えたところ、曾祖父の話をお聞かせしてくれた。そうすると話の最後に「父ちゃんが硫黄島に流されているかもしれないから、拾ってきてくれや」と言われたのを強く覚えている。私がこの派遣で一番印象に残ったのは初めてご遺骨が出てきた作業6日目のことだった。トーチカで活動していた際、ご遺骨が出てきた。ご遺骨の周辺をさらに掘り進めていくと、合計で2柱あることが判明した。ご遺骨を掘り進めていたその時、どこからともなく蝶々が2匹飛んできて私たちの目の前を通り過ぎたのだ。75年ぶりに外の景色を見ることができて喜んでいてに違いないと感じた。ご遺骨を自分の手で上げた瞬間、自分の手が震えているのを感じた。その時はご遺骨が「骨」という認識だった。しかし、きれいな顎骨を挙げた際に、ある方が「よかったね。これでようやく帰れるね」とうれしそうに顔で言った。その瞬間、目の前のご遺骨に対する認識が変わったのだ。確かにそのご遺骨は「骨」なのかもしれない。しかしこのご遺骨は75年前には確実に血が通っていた骨であり、その人の生きた際にもその一言が頭の中に響いていた。今ここに自分自身が生きているのが当たり前ではないことを痛感した。戦争の犠牲となった方の一人一人に、家族があり、生きてたくても生きていけない人生があった。私は「友人が近くにいてくれること」や「今日を何事もなく生きていくこと」、そんなかけがえのない日常生活に溢れている、些細で小さな幸せを、大切にしていきたい。そして遺骨収集とはただご遺骨を拾い集めることではない。その人の生きた証を、その人の人生を日本の本土に帰還させるのだ。そう考えたとき、ふとテニアン島で戦没した曾祖父の話を思い出した。曾祖父はテニアン島のどこで倒れたのかは誰も知る由はない。もうすでに収容されて日本に帰っていかれるかもしれない。しかし私は必ずテニアン島に行き、ご遺骨をあげに行くことの中で誓った。また日本はある日突然として現在の国柄を築いたのではない。父、祖父、

大祖父と比べれば数えきれないほどの歴史を紡いできた結果として今ここに平和を享受しているのだ。つまり歴史を知ることが自分自身を知り、両親や祖父一人でも欠けてしまえばここに存在することが不可能な運命的な個人の再認識、ひいては「運命の中に生きる自己」を再認識することだと考える。今日の平和な日本の礎を築いたのは誰なのかと考えた時に、一つは戦争で祖国日本のために戦い戦没した若き青年だと言えるかと思う。それを考えたときに遺骨収容の大きな意義が見えてくるはずだ。祖国日本のために血を流し戦地に未だ眠らされている先人たちの「声なき声」に報いるためにも、我々は最後の一人をお迎えするまで現地へと赴き遺骨収容をしていかなければならない。



硫黄島の作業現場 (4.12.3)
日本戦没者遺骨収集推進協会提供

【かけがえのない日本、かけがえのない世界⑮】
2回の遺骨収集活動を経験して
JYMA日本青年遺骨収集団 学生代表
神保 尚子

私が初めて遺骨収集に参加したのは令和元年度3月のことだった。ご遺骨がまだ残っているという事実を感じた時は、あまりに衝撃的で鳥肌が立ち、手が震えた。同期たちと活動を通して感じたことについて、夜明けまで意見を交換し合ったのを覚えている。今年度はコロナ禍ということもあり、例年2月に実施していた沖縄自主派遣は1か月前後移動せざるを得なくなりました。そのため派遣隊の学生参加人数が減少してしまいましたが、このような状況下でも遺骨収集活動を希望して全国各地から集ってくれた仲間がいることが素直に喜ばしく、同じ志を持つ仲間に出会えたことに感謝したい。さて、派遣中および活動中において私自身感じたことがいくつかあったため、ここで述べさせていただきます。(第三面につづく)

ただくこととする。(第二面からつづく)

派遣2日目には、アブチラガマの見学をした。あの壕内の独特な重い雰囲気は、何度体験しても慣れることや忘れることはないだろう。昨年度の報告文では「75年前の事実と向き合うことができた」と記していたが、沖繩戦の事実と向き合った先にできることは何があるのだろうかと自身の無力感を感じた。また、次の日からの活動に恐怖を感じた。活動前の時点で、昨年度の派遣とは感じ方・考え方が異なっていることに気付かされた瞬間だった。

派遣3日目から活動を開始した。ジャングルのような森の中を進み、活動地向かった。活動は順調に進む日もあれば、そうでない日もあった。私が活動中に感じたことは、大きく二つあった。

一つは、その方が「もうそこにはいない」という事実を判明させたこと自体が成果であるのに、ご遺骨をお迎えできない時間が続くと焦り、不安を感じてしまつたという感情が生まれたことだ。活動最終日に近づくにつれて、焦りや不安は大きくなった。同時にご遺骨をお迎えした時に安心する自分もいた。最終的になぜこの感情が生まれるのか、私には理解ができないまま今回の活動日を終えることとなった。

もう一つは、改めて戦争はまだ終わつてはいないのだと痛感したということだ。この考えを決定づけた出来事に、活動5日目に頭蓋骨をお迎えしたことが挙げられる。長期間にわたって遺骨収集が実施されている沖繩で、未だ頭蓋骨をお迎えしていなかった場所が存在していたことは私や他学生にとつて非常にショッキングな事実であった。

今回お迎えした方々およびまだ眠っている方々は、終戦七十五年以上の時が経っても自分たちが発見されないことを想像していただろうかと思うと胸が痛む。最後に、今派遣を通して「慰霊」とは、

戦没者の方々は何を想って生きていたのかについて、現代を生きる私たちが「想いを馳せる」ということなのではないかという私なりの結論にたどり着いた。これは「慰霊」というJYMAにとつても大きいテーマのうち、私が考えた一つの行動であり、他にも「慰霊」の形は多数存在するのだろう。今後も遺骨収集に携わる人間として、様々な「慰霊」の形を見つけていきたい。

【かけがえのない日本、かけがえのない世界⑱】
初めての遺骨収集

JYMA日本青年遺骨収集団
松本 拓也

2021年3月、私にとつて初めての遺骨収集に参加しました。遺骨収集事業とは、放置されたままになっていく第二次世界大戦における戦没者の遺骨を捜索し、収容する事業です。私が所属するJYMA日本青年遺骨収集団(大学生が中心になり運営するNPO法人)は、国内では、沖繩、硫黄島、海外では、シベリア、マリアナ諸島、パオ、ミャンマーなどに赴き、遺骨収集活動を長年にわたり実施してきました。しかし、海外戦没者約二四〇万人のうち、約半数(約一二八万柱)の御遺骨しか収容できていない状況にあります。そういった状況に問題意識を持ち、また友人の誘いもあり、遺骨収集に参加することにしました。

私は主に糸満市・荒崎海岸で収容活動を行いました。遺骨収集は想像以上に、地道な作業の連続であり、大自然の中での収集作業でした。地面を掘り続けても、何も出てこないこともあり、果たして自分は御遺骨を収集することができるのかと思うこともありましたが、事前にも骨格概要の勉強をしたものの、実際に御遺骨を見たことはなく、最初の頃は骨と木と石の見分けがつかせませんでした。経験者の方々の指導を受け、自分でも御遺骨を見つけ

ることができ、徐々に見分けをつけることができるようになっていきました。最終日が近くなるにつれて、参加者の思いが強くなり、休憩することを忘れて活動していました。

毎晩のミーティングではお互いが活動報告や思っていることを話し、皆さんの思いを知るとともに、自らの考えを深めることができました。このメンバーで、遺骨収集ができて心から良かったと思います。

9日目には、引き渡し式と遺骨収集情報センターへの納骨を行いました。センターに向かうまでの間、頭蓋骨が入った遺骨袋を抱えた私は、今回の遺骨収集のことを振り返りながら、様々なことを考えました。75年以上もの期間、取り残された御遺骨を抱えたときの気持ちには言葉に表すことができません。「遺骨袋を持っている間は、御遺骨と一体になる」という言葉の意味を感じつつ、慰霊の気持ちを胸に、静かに御遺骨を抱え続けました。

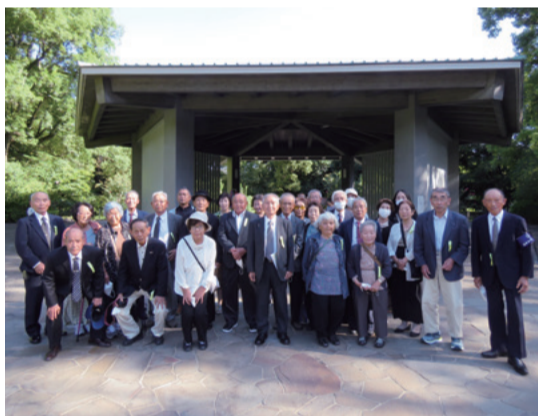
今回の派遣で、今なお取り残されている御遺骨がたくさんあることを実感し、「先の戦争はまだ終わっていない」という言葉の意味を知ることができ、とても貴重な経験となりました。また、私自身、骨の知識が足りていないことを改めて認識し、骨格概要の勉強をさらに進めたいと思います。今後も、沖繩での遺骨収集活動で学んだことを活かし、JYMAの活動に取り組んでいきます。



献鶴飯泉様



福井県遺族会 (4.10.02) その1



福井県遺族会 (4.10.02) その2



福井県遺族会 (4.10.02) その3



喇叭保存会 (5.1.8)



喇叭伝承会 (4.12.18)



富山県遺族会 (4.12.13)

各団体の慰霊参拝



清掃奉仕会 (5.1.21)

◎奉納、参拝団体・参拝者(敬称略、順不同)
クラスノヤルスク遺族会、伊勢原市遺族会、普明会教団、水交会、全国警親会連合会、富士ダイス、笹隆治、哲子、向井正興、広瀬ゆう子、山本勝久、廣川貞雄、廣川剛秀、田中重保、秀平島順子、青柳幸司、ブラビチャヤ、赤甲ムームス、永島順子、青木嘉昭、一杉満、赤坂甲治、柴田米実、飯泉 浩、田村和彦、田村照彦、高橋昌宏、松永聡子、佐藤光儀、高橋貞夫、細井忠彦、猪巻ひかり、加藤洋一、酒井治雄、有泉まゆ子、米原恭洋
◎奉仕会年度会費納入者(団体・個人)
(敬称略、順不同)
河村 涼、熊田浩三、五十嵐昭雄、田村史好、持留宗一郎、若澤 博、西川寛光、西川ひろみ、中田勝仁、猪谷隆智、石井 仁、古谷高宏、長澤邦雄、田中健太郎、塚田敦司、森井 聡、宮本光啓、有馬 進、清水義宏、林田 勝、山口靖浩、糸永隆一、仁熊啓介、木村貴紀、城戸良拓、白石敬信、今坂幾夫、鈴木悠介、瀧下幸博、高橋 誠、大越 宏、佐藤真澄、三瓶修司、森春幸二、瓶美直、大内信作、松崎真史、鹿野伸浩、馬渡和幸、山川栄一、松尾拓樹、小野寺伸輔、佐藤義和、上野敏栄、久保井恒之、勢井学、春日井雅登、吉村和哉、坂元康一、保氣口邦夫、内藤寛道、中村祥司、徳山 亨、下部 弘、貴広、坂井修一、玉坂繁光、西條昌弘、千葉理彦、松本隆志、大浜松雄、津田雅宣、中村英樹、坂井紀博、輪竹暢久、山崎四郎、武田 満、持田 徹、日原寛之
◎新入会員(敬称略、順不同)
田村 力、有泉まゆ子、佐田康昭、中森崇夫
◎参拝団体(前項以外、敬称略、順不同)
富山県遺族会、博物館友の会、幸手市歩こう会、浦和区健康促進グループ、喇叭保存会
喇叭伝承会
喇叭保存会(敬称略、順不同)
阿含宗清掃奉仕、トイレ清掃奉仕会
◎献花台奉仕者(敬称略、順不同)
柴山古流、緑山流(高畑冷恵、北川冷智)、日新流(小田切博新、佐藤寿新)、松風花道会(松本君水、釜堀恵水、倉持桃水、男鹿澄水)、藤栄流(落合一文、倉地一博、溝淵一富)
令和5年1月31日まで受付分を掲載、2月1日以降受付分は次号に掲載します。

紺綬褒章公益財団 認定のお知らせ

(公財) 千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会は、内閣府賞勲局より日本の褒章制度の一つで公益のために私財を寄付し功績顕著なる方々へ授与される「紺綬褒章」の公益団体認定を受けました。

個人では500万円以上、団体、企業等は1,000万円以上を(公財)千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会へご寄付を頂いた方々で定められた条件を満たす場合には「紺綬褒章」の授与申請を致します。なお、過去多くの方々からこれらの金額に該当するご寄付を頂きましたが、(公財)千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会へのご寄付は令和4年10月18日以降が対象となりますので、予めご了承下さい。

秋季慰霊祭における 支援業務について

墓苑清掃ボランティア 社会人
岩浅 博之



令和4年10月18日(火)千鳥ヶ淵戦没者墓苑にて「秋季慰霊祭」が執り行われ、参列

させて頂きました。事前の天気予報にて秋雨になると備えはしつつ、当日は朝から曇り空で式典が始まると雲の間から青空も顔を出し、なにか天からも見守られているような空模様でした。私は秋季慰霊祭を主催する千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会の支援をするために参加しました。支援内容は、JYMA日本青年遺骨収集団の大学生2名と私を含む社会人2名の計4名体制による「除菌チーム(通称・ウイルスバスターズ)」として、奉仕会の専従員や隊友会のリーダーに指導を受けながら、参列者の検温と、施設・備品等の除菌を行う新型コロナウイルス感染症の対策業務です。新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、世間でも感染予防の意識は高まっていますが、未だ日々の感染者が報告されていた状況下です。皇

族の方々、政府要人も参列される慰霊祭にて、一人の感染者も見逃す事は許されない重要な業務です。奉仕会にて準備して頂いた、ウイルスバスターズ用の白いユニフォーム、フェースシールド、ゴム手袋を装着し気持ちも引き締まります。ウイルスバスターズのメンバーで作業を分担し、参列者の皆さまにご協力頂きながらの検温業務と休憩所や前屋の椅子などの人が入れ替わり利用する設備の除菌業務を慎重かつ丁寧に行いました。幸い検温業務では一人も発熱者は確認されず、後日ですが奉仕会より秋季慰霊祭の参列者で感染者の発生は報告されていないとお聞きし安心しました。支援業務が完了した後、秋季慰霊祭にも参列させて頂きました。式典が厳かな雰囲気で行進する中、とりわけ音羽ゆりかご会の童謡唱歌奉唱で「海ゆかば」「みかんの花」を歌う子供たちが美しい歌声に心洗われる気持ちになり、英霊が優しく微笑みながら聴いて、とても喜んでいるような気がしました。閉式後は一般焼香し、六角堂の復旧作業などをお手伝いをしてこの日は帰路につきました。先の大戦で尊い命を賭して国を守ってくれた英霊のお陰で今日の日本の平和があります。特に遠方へ出征し遺骨となって帰国された無名戦没者の御霊への感謝を忘れてはいけないという思いで、千鳥ヶ淵戦没者墓苑に度々お伺いし参拝していました。次第に奉仕会の専従員とも顔見知りとなり、年4回千鳥ヶ淵戦没者墓苑清掃奉仕会の活動がある事をお聞きし、参加するようになりました。墓苑に眠る戦没者のためご奉仕活動ができることは大変ありがたいことです。その後も適時週末には墓苑にて清掃ボランティアとして奉仕活動させて頂くようになり、そのご縁でこの度の秋季慰霊祭における支援業務のお声がけを頂きました。墓苑に眠る英霊の御霊が繋いでくれたご縁だと思っています。私事ではありますが、沖縄県で初めて遺骨収集ボランティアに参加することになりました。また墓苑に眠る無名戦没者への思いも深まると思います。今日の国の平和を守り

墓苑便り(奉仕会だより)

1 パネル展のご案内

「令和5年千代田区さくらまつり」開催に伴い3月中旬からの桜開花時期に併せてパネル展を開催します。「墓苑の行事」、「墓苑の四季」、「世界の無名戦士の墓」などのパネルを展示します。多くの方のご来苑をお待ちしております。

2 春の奉仕茶会のご案内

4月2日(日)千鳥ヶ淵戦没者墓苑にて春の奉仕茶会が開催されます。茶会では、薄茶席が設けられ参列者にお茶を楽しんでいただきます。電子楽器テルミンとギターそれに民族楽器によるミニ野外演奏会も行われます。一般の方の参加も大歓迎です。皆様お誘い合せの上ご来苑下さい。「千鳥ヶ淵緑道」沿いの桜見物と共に墓苑参拝、茶会へどうぞ(細部は本紙第二面のご案内をご覧ください)

3 3月〜4月献花の予定

- | | |
|---------|-------|
| 国際華道如心流 | 若林 広峯 |
| 草翠流 | 林 草翠 |
| 松葉流古流 | 田中 一秀 |
| 遠州流一森会 | 名鏡 一玲 |
| 美風池坊 | 小島 美陽 |
| 古流松濤会 | 石井 理顕 |
| 駿東流 | 小泉 恵華 |

4 役員会等の開催

- 4月14日(金) 期末監査
 - 5月12日(金) 第1回通常理事会
 - 6月12日(月) 定時評議員会
- ※各役員様に別途ご連絡申し上げます。

5 お詫び…1月号、花手水の読み仮名(又はふりがな)を「はなちようず」に訂正しお詫び申し上げます。



こどもの国 ふれあい学び館



宝くじ桜



一輪車



ユニバーサルデザイン施設
ピクニックテーブル



移動採血車

宝くじは、みんなの暮らしに役立っています。

宝くじは、図書館や動物園、学校や公園の整備をはじめ、災害に強い街づくりまで、みんなの暮らしに役立っています。



地震防災体験装置



フラワープランター



総合検診車



テント



消防団防災学習・災害活動車両



ドリームジャンボ絵本



星空観察映像展示施設

